

第12回飛島クリーンアップ作戦

速報

風薫る5月、爆弾低気圧の置き土産相手に荒崎海岸で大奮闘！

豊かな自然に恵まれ絶好の観光スポットとなっている山形県唯一の離島「飛島」。一方、離島であることで漂着ゴミも流れ着きやすく、またその処理も難しくなっている。この課題を解決しようと始まった飛島クリーンアップ作戦も回を重ね、今年が第12回目。5月26日(土)に24時間テレビチャリティ委員会の協賛のもと、官民産学の多様な協働で清掃活動が行われた。

今年は4月初めの急速に発達した低気圧により大量の漂着物が海岸段丘の上まで打ち上げられ、飛島の海岸は例年にも増して漂着ゴミが多くなっている。その中でも特に漂着物が目立ち、観光地として多くの人を訪れ、島の皆さんの要望もあった荒崎海岸を清掃箇所とした。荒崎海岸での実施は第8回以来となる。

島の中央を走る農免道路から遊歩道に入り、荒崎海岸に下っていくと漂着ゴミが視界に入ってくる。さらに近づくとき大きな流木や漁船も打ち上げられ、その量の多さには驚かされる。

驚きつつも、庄内地域はもとより、県内内陸部、飛島と交流がある新潟県粟島、さらには宮城県から意欲高く集まった参加者190名は、島民60名とともに、早速、作業にとりかかった。

荒崎海岸は遠浅で船をつけるのが難しく、回収したゴミは車が入るところまでバケツリレーで搬送した。

その距離300メートル。1時間半以上を要し、一同クタクタとなった。



疲れた分、清掃終了後にいただいた、漁協女性部の皆さんが準備してくれたイカ焼き、アラムの煮付け、イグスの味噌汁といった飛島の料理がとても美味しかった。

集めたゴミは34立方メートル、推定で約4トンとなった。五月最後の土曜日。今年もまた、飛島からさわやかな風が吹いた。



【参加者の声】

- ゴミ袋のリレーで知らない人達と皆で力を合わせた。仕事を忘れられた。(40代女性)
- 庄内だけでなく、世界の問題。一人一人の意識が大切。(70代男性)
- 初めて参加した。思った以上にゴミがあった。みんなで協力してできたのが良かった。(20代男性)
- 天気よし、スケジュールよし、景色よし、疲れ具合よし、メンバーよし、バケツリレーで仲良くなれた。(50代男性)

●実行委員会構成団体●

NPO法人庄内海浜美化ボランティア
NPO法人パートナーシップオフィス
NPO法人美しい庄内
社団法人山形県産業廃棄物協会
藻場再生研究クラブ
東北公益文科大学
飛島コミュニティ振興会
海上保安庁酒田海上保安部
山形県庄内総合支庁
酒田市

●協賛●

24時間テレビ・山形放送

●協力●

株式会社みなと

●この事業は「24時間テレビ・山形放送」の協賛を受けて実施されました●

★発行日：平成24年5月26日(土) ★発行：第12回飛島クリーンアップ作戦実行委員会